

特別支援 発達心理学の一探究

- よりよい理解と支援をめざして

“Walk beside with love and peace and truth”

～ 歩いてほしい かたわらを 愛と平和と真理とともに ～

鎌田文聰 著



特別支援 発達心理学の一探究

•よりよい理解と支援をめざして

“Walk beside with love and peace and truth”

～歩いてほしい かたわらを 愛と平和と真理とともに～

まえがき

— 刊行に際して —

筆者は、1974（昭和49）年4月、東京都心身障害者福祉センター（幼児科）に、その後1977（昭和52）年4月、岩手大学教育学部に赴任いたしました。

以来、35年にわたり、岩手を中心に教育、福祉や保健の方々との連携を軸に、関係するたくさんの方々のお力添えを戴きながら教育、研究に携わってまいりました。

本小誌は、2012（平成24）年3月、国立大学法人岩手大学定年退職を迎えるにあたり、これまでの歩みの一端を、「特別支援発達心理学の一探究 ～よりよい理解と支援をめざして～ “Walk beside with love and peace and truth”」と題してまとめたものです。

論文・論稿の主な内容は、次のとおりです。

第1章：「乳幼児の定位—探索活動研究（発生と発達）」

第2章：重度・重複障がい（発達的変容）
家族支援（集団討議形式）研究

第3章：英国の特別ニーズ教育と社会保障の一端

第4章：動植物介在活動研究

第5章：諸論稿
最終講義要録
“デンマークの「ホット」な「風」に魅せられて”

特別支援発達心理学の一探究
～よりよい理解と支援をめざして～
“Walk beside with love and peace and truth”

contents

はじめに

第1章 乳幼児の定位 — 探索活動研究（発生と発達）

研究エピソード 1	2
1 乳幼児の「定位反応」の発達心理学的一研究（1） —発達段階仮説の提起—（1981）	4
2 乳幼児の「定位反応」の発達心理学的一研究（2） —出生から1ヵ月まで（聴覚刺激に対する「反応」を中心に）—（1981）	17
3 乳幼児の「定位反応」の発達心理学的一研究（3） —出生から1ヵ月まで（視覚刺激に対する「反応」を中心に）—（1982）	25
4 乳幼児の「定位—探索活動」の発達心理学的一研究（4） —出生から1ヵ月まで（触覚刺激に対する「反応」を中心に）—（1983）	33
5 乳幼児の「定位—探索活動」の発達心理学的一研究（5） —生後1ヵ月から2ヵ月頃まで （聴覚刺激及び視覚刺激に対する「反応—活動」を中心に）—（1984）	43
6 乳幼児の「定位—探索活動」の発達心理学的一研究（6） —生後1ヵ月から2ヵ月頃まで （聴覚刺激と視覚刺激とのクロス提示に対する「反応—活動」を中心に）—（1985）	51
7 乳幼児の「定位—探索活動」の発達心理学的一研究（7） —胎生期におけるその生理学的前提の発達について—（1986）	60
8 教育・心理学領域における諸外国の新生児研究動向（1990）	71
9 健常及びダウン症新生児の視・聴覚刺激に対する定位反応の発生と発達（1990）	81
10 健常及びダウン症新生児の聴覚刺激に対する防御反射と定位反応の発達に関する比較研究（1994）	100

第2章 重度・重複障がい（発達的変容）家族支援（集団討議形式）研究

研究エピソード 2	114
1 難治性てんかんを伴う知的発達障害幼児の飢餓及びケトン食療法の心理学的考察（1977）	116
2 重度・重複障害幼児の親援助・指導に関する一研究（1978）	126
3 重症心身障害者の発達に関する事例研究 —出生から32歳まで—（1992）	135

第3章 英国の特別ニーズ教育と社会保障の一端

研究エピソード 3	144
1 英国の特別ニーズ教育と統合教育 Current Special Needs Education and Integration in the United Kingdom (1) (英文) (1997)	146
2 英国の総合的社会保障 - 1990年代の教育・医療・福祉のシステムに焦点をあてて - (1998)	152

第4章 動植物介在活動研究

研究エピソード 4	160
1 乳幼児と動植物飼育, 栽培活動 - 岩手の幼稚園・保育園の実態調査 (続報 2: 「有効性」を中心に) - (2000)	162
2 乳幼児と動物飼育活動 - 岩手の幼稚園・保育園の実態調査 (続報 3: 「生, 死」への対応) - (2001)	167
3 乳幼児と動物飼育活動 - 岩手の幼稚園・保育園の実態調査 (続報 4) 統合保育実施園と未実施園での「有効性」の相違 - (2003)	175
4 A Study of Relevance of the Effectiveness in Animal Breeding Education and Integration in the Infancy (英文) (2003)	183

第5章 諸論稿と最終講義要録

研究エピソード 5	190
1 “インフォームド・コンセント”	192
2 ノーマライゼーション社会の形成に向けて	198
3 「21世紀: 転換期の特別支援教育」	200
4 “気になる” 子どもの理解と発達支援	205
5 “デンマークの「ホット」な「風」に魅せられて”	208

おわりに

資料 履歴及び研究業績一覧	212
---------------	-----



マンチェスター大学 (英国)



文部省長期内地研究員:京都大学 1979.5~12
故 田中昌人教授との発達ゼミの1コマ 1979.10.20



ポスター発表の間のフリーディスカッション
ヘルシンキ ユバスキューラ大学にて 1989.7.10



国際コミュニケーション学会 モスクワ大学 1989.9.18
「欠陥学研究所」にて研究交流



ロンドン大学 ブラハム・ノールウィッチ教授と筆者
文部省長期在外研究員
(英国他 1996.3~1997.1) 1996.11



ノッティンガム大学と市民



アーサー・ハラダ教授 (チェスター大学) 宅にて



ノッティンガム シェファード スクールにて 1996.6



エジンバラ大学の仲間とコラボ '96.10



バーミンガムのある成人通所施設 1996



「007」のロケ地でも知られるエジンバラステーションデパートとエジンバラ城

はじめに

“誕生 その時から 一人ひとり かけがえのない国民として 迎えられ
それぞれ 個性はぐくみ 自己実現 図る 教育システム 国の施策 確立
各家庭 学費医療費 心配なし 子育てできる 幸せ
障がい あっても その状態にあわせ より手厚い支援 得られる仕組み
自然にやさしい ひとに やさしい
支えあう 共生社会 稀有な素晴らしさ”

そうした国

「自己実現の国、かけがえのない国民として迎えられる国」
デンマーク めざしているね これまでも これからも

知人からこんな事を聞いたのは、そんなに前の話ではない。

思えば、筆者が高校1年の頃、寸劇の様な英語劇で
King's New Clothes (裸の王様) をやった事があった。
子どもが、本当の事を、みたまま、ありのままを、ストレートに語る。
大人は、偽りと、真(まこと)の、醜さや、大切さを改めて見つめなおす。

偽りは偽りのなかで、真は、真のなかで。

優しさは、優しさのなかで。

〇〇は、〇〇のなかで。

そんな、あたりまえのこと

とても大切な事を

アンデルセンは、語り続けていたのかもしれない。



アンデルセン像 2011



デンマーク・コペンハーゲン 2011

